

# これが 公民館報

第314号

御意見・御希望・お問い合わせは四賀公民館まで… TEL 64-3112

### 四賀の世帯数・人口

世帯数	1,944	世帯
人口	4,610	人
男	2,236	人
女	2,374	人

(平成30年1月1日現在)

## 書初め教室開催 新春恒例



一月四日、書き初め教室が四賀支所で行われました。

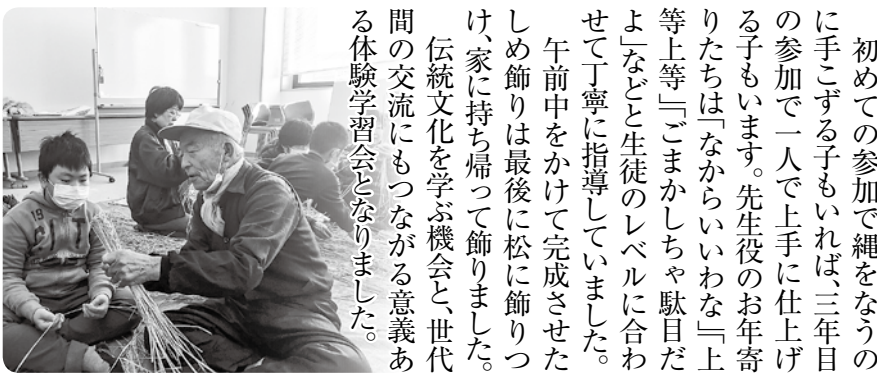
四賀小、会田中学校の児童生徒十七人が、『不言実行・正月の朝・生きる力・強い信念・つよい心・いぬ・正月』など、各学年ごとのお題に向かい、真剣な表情で筆を走らせました。これは、学校からの課題と、市民タイムス展に出展のためで、半紙や、二十七センチ×七十二センチの書き初め用紙を使います。講師の小峰眞佐子さんが、「余白がもつたいない。」「ハネをしつかり。」「バランス良く。」「名前は堂々と。」「お手本見てゆつくり、上手!」と朱墨液で添削してゆきます。

何度も書いて完成した力作揃いの書き初め入選作は、二月十六日の市民タイムス紙上で掲載、山形村アイシテイにて二月十七日～十九日に展示されます。

## 伝統文化を楽しく学ぼう しめ飾り体験学習会



お正月に欠かせないしめ飾り。その作り方を学ぶ講習会が十二月十日に四賀支所で開催され、小学生や保護者ら二十人が参加しました。参加者は地元のお年寄りたちの手ほどきを受けながら、しめ縄とヤスや輪締め作りに奮闘。



初めての参加で縄をなうのに手こずる子もいれば、三年目の参加で一人で上手に仕上げの子もいます。先生役のお年寄りたちは「なからいいわな」「上等上等」「ごまかしちゃ駄目だよ」などと生徒のレベルに合わせて丁寧な指導していました。

午前中をかけて完成させたしめ飾りは最後に松に飾りつけ、家に持ち帰って飾りました。

伝統文化を学ぶ機会と、世代間の交流にもつながる意義ある体験学習会となりました。

## いきいきわくわく四賀の里



生涯学習フェスティバル2017

小学校六年生が調べた、会田宿・殿村遺跡・会田氏・化石などについての研究報告と、これからの四賀地区に対しての提案がありました。

次にクラインガルテンの現在の様子が管理の四賀むらづくり株式会社の金井社長より報告され、利用者による活動報告がありました。

最後はおなじみ、福寿草劇団の民話劇「広田寺のおっさまとごん狐」が発表されました。昨年逝去された遠藤旭先生が脚色された第一作目の再演でした。劇団の皆さんの演技にも力が入り、観客の皆さんも楽しく観劇していました。

閉会式は会場内全員の合唱で「ふるさと」を歌い、閉会となりました。

第十二回「生涯学習フェスティバル」が十一月十九日にピナスホールで開催されました。開会式の後「生涯学習推進の里 四賀」の宣言があり、活動発表と活動報告が行われました。ステージでは四賀秀嶺会の大正琴、福寿会の舞踊、カラオケの会の歌唱、四賀健康スポーツクラブによる体幹トレーニングのモデル演技、スワンキャンベルのハンドベル演奏、四賀混声合唱団の合唱が発表されました。皆さんの日ごろの活動内容が十分に発揮されていました。合唱では、次に活動報告をする四賀小学校六年生も合唱に加わり、歌声を披露しました。

活動報告は「未来へつなごう 四賀の宝」と題し、四賀



## おめでとう! 成人式

1月7日 松本市体育館



# 四賀音楽村



## コンサート

十一月十八日、ピナスホールにて「四賀音楽村コンサート」として会田出身の岩淵みずきさんのサクソフォンと、市川知佳さんのピアノによるコンサートが開かれました。「カンツォネッタ」「チャルダッシュ」など演奏の難しいといわれている曲や「アイスニースペシャルメドレー」などが演奏されました。二人の演奏はホールに鳴りわたり、聴くもの全てを魅了しました。

# 殿村遺跡 第八次調査報告会

十二月十七日、「殿村遺跡とその時代Ⅷ」と題し、平成二十九年年度調査報告会が開催されました。今回は「殿村遺跡発掘九年間の歩み」の報告と、四賀小学校六年生による「未来へつなごう四賀の宝」の発表、そして、立正大学の時枝教授の講演「中世の山寺と殿村遺跡」が行われました。

資料展示には、平成二十年、二十九年年度までの各年度の発掘調査写真、出土した陶磁器や茶道具の写真二十数点が掲載され、九年間の発掘調査の様子が克明に写されています。四賀小学校六年生は「殿村遺跡が後世まで伝え続けてゆかねばならない四賀の宝である」と発表しました。講演では「山寺の石積・石垣・山城の性格、岩屋神社と修行窟、水の信仰、修験道の時代」の項目について語りつなぐことができました。



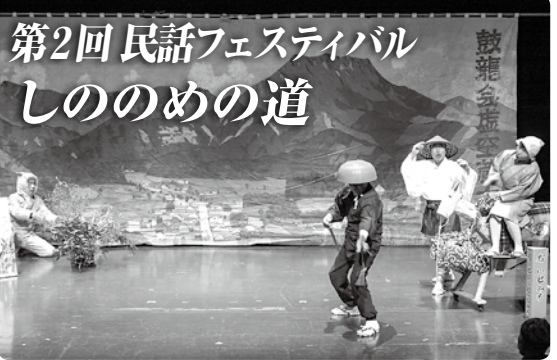
# 人権啓発推進協議会



## 視察研修

十一月二十八日、四賀地区人権啓発推進協議会による「浅川伯教・巧兄弟資料館」(山梨県北杜市)へ視察研修会を行いました。

浅川兄弟の兄伯教は、明治十七年、弟巧は、同二十四年に山梨県高根町に生まれ、共に朝鮮に渡り白磁など朝鮮族美術館」を設立し、日朝の交流の場としてだけでなく、当時の日本による同化政策に抵抗するという意味も込められていました。巧は、四十年と短い生涯を閉じましたが日常生活も朝鮮人と同じ生活を行うなど朝鮮を愛してきました。二人の功績などを資料館の澤谷滋子館長から説明をうけ、参加者からは、「朝鮮と日本の関係がどのようなものだったかよくわからなかったが、資料を見て説明を受けて理解ができた」と話していました。



# 第2回民話フェスティバル しののめの道

十二月十七日、岡田地区まちおこし協議会主催の「第二回民話フェスティバル しののめの道」がまつもと市民芸術館小ホールで開催されました。岡田地区をはじめ、山形村、中山小学校、市内各グループによる、民話劇、朗読、紙芝居などのステージ発表がありました。四賀地区からも福寿草劇団が参加し、民話劇を披露しました。

**四賀地区担当 伊東 裕輔 保健師**

**四賀支所にいます!**

● 2月	5日(月)	8:30 ~ 正午	13:00 ~ 17:15
	26日(日)	8:30 ~ 正午	
● 3月	5日(月)	8:30 ~ 正午	
	19日(日)	8:30 ~ 正午	
	26日(日)	8:30 ~ 正午	13:00 ~ 17:15

お気軽にご相談ください

# 湧き水

▼新年を迎えまた一つ年を重ねた。中年からシニア世代へ片足を突っ込んだ年になったが、超少子高齢化社会となった現在ではまだまだ若造の部類かも。頭の老化は進んでいるなど感じることも多くなったが体力的にはまだまだ若いつもりでいる。超高齢になるまで長生きしたいと思わないが、病んで臥す様な老後は避けたいと漠然と思っている。▼ここ数年運動は続けているが健康と若さを保つためには「免疫力の維持と向上」が重要だと知った。定期的に体を鍛える運動が重要なことではあるが、バランスのとれた善玉菌を増やす食事や規則正しい睡眠、体温を上げる、よく笑うなど、生活習慣の見直しも必要だとある。よく聞く話だが本当だろうか。▼健康情報や健康産業が隆盛である。テレビのCMは健康サプリの通販ばかり。どこかが悪くなればそれにすがりたい気持ちもわかるが、体が動くうちに運動をして筋肉を付けて心肺機能を高めていこうと思う。後は笑ってすごせる一年になるようがんばること。